

2018年度大学「総合人間科学」保健福祉学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
					DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
			必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
保健福祉学部共通科目	基礎教養	保健福祉学入門	1		◎			○	○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	基礎英語		1	◎					
		英会話入門		1	◎					
		実用英語コミュニケーション		1	◎					○
		中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
日本語表現法			1	◎					○	
メディアリテラシー			1	◎					○	
情報処理基礎			1	◎					○	
地域創生	情報処理演習		1	◎					○	
	情報の理解と表現		1	◎					○	
	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
キャリア形成支援	高齢者支援学Ⅰ		1	○			◎	○		
	高齢者支援学Ⅱ		1	○	○		◎	○		
	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援		1	○				◎		
	実践キャリアプランニング		1	○				◎		

2018年度大学「総合人間科学」人文学部カリキュラムマップ

			単位数		大学の学位授与の方針(DP)					
					DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】	DP4【態度】	DP5【技術】
			必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	4-1)	5-1)
全学共通科目	キリスト教教育	キリスト教(旧約聖書)	2		◎					
		キリスト教(新約聖書)	2		◎					
		キリスト教と西南女学院のあゆみ	1		◎			○		
		キリスト教と文化		1	◎			○		
		キリスト教と現代		1	◎			○		
	初年次教育	初年次セミナーⅠ	1		◎			○	○	
		初年次セミナーⅡ	1		◎			○	○	○
	女性と健康	運動と健康	1		◎				◎	
		チームスポーツ		1	○				◎	
		生涯スポーツ		1	○				◎	
		女性史		1	◎					
		共生社会とジェンダー		1	◎					
人文学部共通科目	基礎教養	人文学入門	1		◎				○	
		文学		2	◎					
		日本国憲法		2	◎					
		生物と生命科学		2	◎					
		数学リテラシー		1	◎					
		こころと人間		2	◎					
		経済学入門		2	◎					
		生活の中の化学		2	◎					
		人生と哲学		2	◎					
		法学		2	◎					
	比較文化と国際理解		2	◎					○	
	アカデミックスキル	中国語入門		1	◎					○
		中国語発展		1	◎					○
		ハングル入門		1	◎					○
		ハングル発展		1	◎					○
		フランス語入門		1	◎					○
		フランス語発展		1	◎					○
		日本語表現法		1	◎					○
メディアリテラシー			1	◎					○	
情報処理基礎			1	◎					○	
情報処理演習			1	◎					○	
地域創生	情報の理解と表現		1	◎					○	
	北九州の過去・現在・未来		1	◎						
	地域プロジェクト		1	◎			○	◎		
	北九州の技と文化		1	◎						
	ボランティア概論		1	◎						
キャリア形成支援	キャリア開発	2		◎						
	ライフイベントとキャリア支援		1	○				◎		
	実践キャリアプランニング		1	○				◎		

看護学科

学位授与の方針 (DP)

看護学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士(看護学)の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) 看護の対象である人間の尊厳や多様性の理解と、社会をグローバルに捉える視点を修得している。
1-2) 看護実践に必要な基本的な知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 健康上の課題を解決するため、情報や知識を活用し論理的に思考・判断できる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 自立した女性として、生涯を通じて社会貢献しようとする意欲をもっている。
3-2) 健康支援に関わる人々と協働・連携し、生活の質を維持・向上させようとする意欲をもっている。

DP4【態度】

- 4-1) 看護実践者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
4-2) 根拠に基づいて看護実践しようとする姿勢を身につけている。
4-3) 社会の変化を捉え、自ら学び続ける姿勢を身につけている。

DP5【技能・表現】

- 5-1) 看護の対象と良好な関係を築くことができる。
5-2) 地域や社会において看護の対象に基本的な看護を実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

- 1. 看護学科の教育課程は、看護実践者の育成を目的として、総合人間科学と専門教育科目「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」「看護実践の応用」「看護実践の発展」で構成する。
2. 「看護を学ぶための基礎」「看護実践の基盤」では、看護の対象である人々を理解し、看護を実践するための基本的知識・技術の修得および態度を育成するとともに、看護に関わる倫理観を養う。
3. 「看護実践の応用」では、あらゆるライフステージ・健康状態にある個人・家族・集団・地域社会を対象に看護を実践できる能力を育成する。また、健康支援に関わる人々と連携・協働し、地域社会の人々が望む暮らしに健康の側面から柔軟に対応できる能力を養う。
4. 「看護実践の発展」では、看護キャリアの形成に向けて必要な自ら学び続ける姿勢を身につけ、社会の変化に対応する力を養い、生涯を通じて社会貢献する態度を育成する。
5. 看護師教育課程の卒業要件に加えて、保健師国家試験受験資格、教育職員免許状取得に関する科目を組み込んでいる。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状(看護)を取得できる。

【専門教育科目】

Table with columns for Subject, Credit, Prerequisite, Semester, and Learning Objectives. Rows include subjects like 看護形態機能学 I, 看護形態機能学 II, 感染と免疫, 疾病学総論, 疾病学各論 I, 疾病学各論 II, 公衆衛生学, 保健統計学, 社会保障概説, 薬理学, 看護のための臨床検査, 臨床栄養学, 対人関係論, 医療と倫理, 健康教育論, 発達心理学, 臨床健康心理学, 看護学概論, 看護倫理, 看護技術論演習.

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
生活援助技術論演習	2			4								◎	○			○	○				
診療関連技術論演習	2				4							◎	○			○	○				
ヘルスアセスメント演習	1					2						◎	○			○	○				
看護過程論	2						4					○	◎			○	○			○	
看護マネジメント総論	1							1				◎	○			○	○				
看護理論	1								1			◎	○								
早期看護実習	1									実習		◎	○	○						○	
基礎看護学実習Ⅰ	1									実習		○	○			○	○			◎	
基礎看護学実習Ⅱ	2									実習		○	○			○	○			◎	
家族看護学	2									2		◎	○			○					
地域生活支援論	1									1		○		○		◎					
地域連携協働支援論	1									2		○	○			◎			○		
地域生活支援実習	2										実習	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	
在宅看護学	2									2		○	◎			○					
在宅看護学演習	1									2			○		○				◎		
在宅看護学実習	2										実習		○	○	○	○	○	○	○	◎	

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次												
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期											
小児看護学概論	1			1								○	◎								
小児看護学方法論	2				2							○	◎		○			○			
小児看護学演習	1							2				○	○					◎			
小児看護学実習	2								実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
母性看護学概論	1			1								○	◎	○							
母性看護学方法論	2				2							○	◎		○						
母性看護学演習	1							2				○	○			○		◎			
母性看護学実習	2								実習	実習				○	○	○	○	○	○	○	◎
成人看護学概論	1			1									◎	○	○	○					
成人慢性看護学方法論	2				2								○	◎		○					
成人急性看護学方法論	2					2							○	◎		○					
成人看護学演習	2							4					○	◎	○	○	○	○			
継続支援実習	1									実習					○	○	○	○	○	○	◎
成人慢性看護学実習	2									実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
成人急性看護学実習	2									実習	実習			○	○	○	○	○	○	○	◎
老年看護学概論	1			1									◎	○			○		○		
老年看護学方法論	2				2								○	◎		○					

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2																														
			1年次		2年次		3年次		4年次																																										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																																									
老年看護学演習	1							2						○																																					
老年看護学実習	2									2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○								
精神看護学概論	1							1															◎	○																											
精神看護学方法論	2									2				○	◎			○																																	
精神看護学演習	1									2					○													◎																							
精神看護学実習	2														○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○						
看護研究の基礎	1									2					○	◎																																			
看護キャリア形成論	1							1																	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
卒業研究	2									2	2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
看護総合実習	2																																													◎					
国際看護学	1							1						○	○												◎																								
災害看護学	1							1						○	○												◎																								
がん看護学	1									2																	○	◎	○																						
ウイメンズヘルス	1									1					○	○											○	◎	○																						
看護マネジメント論	1									1					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
クリティカルケア看護学	1									2					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
オーラルヘルスケア	1									1					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学概論	2							2							◎	○																																			
疫学	2							2							◎	○																																			
公衆衛生看護学技術論	2							2							○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公衆衛生看護学方法論	2									2						◎																																			
産業看護論	1									1					○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
公衆衛生看護関係科目																						
	対象別公衆衛生看護活動論		2																			
	保健医療福祉行政と政策		1																			
	公衆衛生看護活動演習		2																			
	公衆衛生看護管理論		2																			
	公衆衛生看護学実習		5								実習	実習										
NPO論		1																				
養護に関する科目	学校保健		2																			
	養護概説		2																			
	健康相談		2																			
											◎	4	32	21	3	3	1	6	1	1	12	
											○	9	29	57	19	41	31	31	19	14	0	
計												13	61	78	22	44	32	37	20	15	12	

福祉学科

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
- 1-1) 豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える視点と知識を身につけている。
 - 1-2) 対人援助に必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
- 2-1) 個人や社会の福祉的課題について、的確に把握し、支援方法を検討できる。
 - 2-2) 対人援助職としての倫理的判断ができる。
- DP3【関心・意欲】
- 3-1) 人びとのいのちや生活について、さらに社会の福祉的課題について関心を持つ。
 - 3-2) 課題解決に向けた創造的な支援とは何かを探究しようとする意欲がある。
- DP4【態度】
- 4-1) 社会の一員としての自覚を持ち、責任を持って行動できる。
 - 4-2) 人びとの異なる立場や考え方を理解し、協力することができる。
 - 4-3) 自らを成長させるための課題を自覚し、自己研鑽に努めている。
- DP5【技能・表現】
- 5-1) 他者と関わる上で必要とされる基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。
 - 5-2) 対人援助職としての基本的な専門的スキルを身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 福祉学科は、福祉・養護教諭コースと子ども家庭福祉コースで編成される。
2. 各コースとも社会福祉士国家試験受験資格を基本として、福祉・養護教諭コースでは、同時に精神保健福祉士国家試験受験資格、養護教諭一種免許状のいずれか1つを取得することができる。子ども家庭福祉コースでは、同時に保育士資格を取得できる。
3. 福祉学科カリキュラムは、教養科目を基礎として専門教育科目で「福祉基礎科目」「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」「専門研究科目」と教職に関する科目で構成する。
4. 「福祉基礎科目」では、専門的学習の準備として基礎的な対人援助のイメージを確立し、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士に必要な学習スキルとコミュニケーションスキルを獲得する。
5. 「福祉専門科目」「精神保健福祉関係科目」「福祉心理臨床関係科目」「保健・医療関係科目」「保育関係科目」及び教職に関する科目では、社会福祉士、精神保健福祉士、養護教諭、保育士として必要な専門的知識と理論及び技術の修得を目指すとともに、専門職としての態度を育成し倫理観を養う。
6. 「専門研究科目」は、学びの集大成として位置づけ、3年次、4年次と継続して開講し、自らの課題を設定し探求する姿勢を身につけるとともに、主体的に学び続けるための基礎的能力を養う。

科 目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP																
			1年次		2年次		3年次		4年次																													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2																
ヒューマンサービス基礎演習	1	2																																				
基礎実習	2	2	2																																			
福祉入門	2	2																																				
社会福祉の原理と政策Ⅰ	2							2																														
社会福祉の原理と政策Ⅱ	2								2																													
社会学と社会システム	2	2																																				
社会福祉調査の基礎	2									2																												
ソーシャルワークの基盤と専門職	2	2																																				
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	2	2																																				
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2				2																																	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2					2																																
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	2							2																														
ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	2								2																													
地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2					2																																
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2						2																															
福祉サービスの組織と経営	2										2																											
社会保障Ⅰ	2						2																															
社会保障Ⅱ	2							2																														
高齢者福祉	2								2																													
障害者福祉	2									2																												

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
児童・家庭福祉	2				2							◎	◎		○								
貧困に対する支援	2					2						○	◎		○								
保健医療と福祉	2				2							◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
権利擁護を支える法制度	2					2						◎	◎		○								
刑事司法と福祉	2						2					◎	◎		○								
介護技術演習	2	2											○									◎	◎
ファミリーソーシャルワーク論	2						2						○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○
スクールソーシャルワーク論	2							2					○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク演習	1					2							○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	1					2								◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	1					2								◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	1					2								◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ	1					2								◎	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2												◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4					2	2							◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1												◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
ソーシャルワーク実習Ⅱ	4												◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉制度論	2					2							○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神障害リハビリテーション論	2					2							◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
精神保健福祉の原理Ⅰ	2					2							◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神保健福祉の原理Ⅱ	2					2							◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワークの理論と方法(専門)A	2					2							◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2	
			1年次		2年次		3年次		4年次														
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
ソーシャルワークの理論と方法(専門) B	2							2				◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
精神医学と精神医療	4					4						◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) A	1					2						○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) B	1					←	→					○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○	
ソーシャルワーク演習(専門) C	1							←	→			○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 A	2							←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	○	
ソーシャルワーク実習指導 B	4							2	2			○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	◎	
ソーシャルワーク実習 A								←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	
ソーシャルワーク実習 B	2							←	→			○	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	
精神障害者地域生活支援論	2							2				○	◎	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	
心理学と心理的支援 I	2	2										◎			○								
心理学と心理的支援 II	2	2										◎			○								
認知行動療法基礎演習	1						2						○	◎	○								
発達アセスメント演習	1						2							◎	○							◎	
高齢者臨床心理演習	1						2							○	◎	○						◎	
発達心理学 I	2	2										○	◎		◎								
発達心理学 II	2	2					2					○	◎		○								
発達臨床心理学	2						2						◎	◎	○								
発達臨床心理学演習	2						2							◎	◎	○							
障害者心理学	2						2						◎	○	○								
臨床心理学概論	2	2										○	◎		○								
カウンセリング論	2						2						◎	◎								◎	
社会心理学	2						2					◎			○								
家族心理学演習	2						2					◎	○	○		◎							
カウンセリング演習	1						2						○	○							◎	◎	
健康臨床心理学	2						2						◎	○	○								
スクールカウンセリング論	2						2						◎	◎									

科 目	必修	選 択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 2-2	DP 3-1	DP 3-2	DP 4-1	DP 4-2	DP 4-3	DP 5-1	DP 5-2
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
保育実習指導Ⅰ		2							←	→		◎	◎	○	○	○	◎	○	◎	○	○	
保育実習Ⅱ		2									←	→	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	◎	
保育実習指導Ⅱ		1									←	→	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	◎	
保育実習Ⅲ		2									←	→	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	◎	
保育実習指導Ⅲ		1									←	→	○	○	◎	◎	○	○	◎	○	◎	
保育実践演習		2									2	2			○			◎		◎	◎	
専門研究Ⅰ		2									2	2			◎	○	◎	○	◎	○	◎	
専門研究Ⅱ		2									2	2			◎	○	◎	○	◎	○	◎	
卒業論文		4									2	2			○	○	○	○	○	○	◎	

栄養学科

学位授与の方針 (DP)

栄養学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に学士(栄養学)の学位を授与します。

- DP1【知識・理解】
 - 1-1) 社会人としての基礎的な教養を身につけている。
 - 1-2) 栄養管理、栄養教育のために必要な、専門的な知識および技術を修得している。
- DP2【思考・判断】
 - 2-1) 健康に関する諸課題について、これまでに培った知識・技術をもとに論理的に思考し、判断することができる。
- DP3【関心・意欲】
 - 3-1) 保健、医療、福祉に深い関心を持ち、健康増進および疾病予防・治療に貢献しようとする強い意欲をもっている。
- DP4【態度】
 - 4-1) 専門職業人としての職業倫理をもっている。
 - 4-2) 専門的知識・技術を高めるため、継続的に自己を啓発し、研鑽しようとする態度が身についている。
- DP5【技能・表現】
 - 5-1) 保健、医療、福祉の分野で、他の保健・医療従事者と連携・協働して、専門的な知識・技術を実践に活かすことができる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

【専門教育科目】

1. 食べ物と健康、人体の仕組みと疾病、社会・環境と健康などに関する専門基礎分野の科目を通して、幅広い教養を身につけるとともに、各種栄養素の特徴およびライフステージ別栄養学の知識を修得する。(1年次、2年次)
2. 栄養教育、給食経営管理、臨床栄養、公衆栄養などに関する専門教育科目を修得した後、福祉施設・学校・病院・保健所などにおける「臨地実習」を通して実践的な能力を養うとともに、社会人として社会貢献する態度を育成する。(3年次)
3. 将来の進路に合わせた、より深い知識・技術を身につけるため、「食と健康分野」「実践栄養分野」「臨床栄養分野」の科目を設置する。さらに、卒業研究、卒業ゼミ、演習を通して、専門基礎分野および専門分野により修得した知識の統合をはかり、問題解決能力、論理的思考能力、企画立案能力を養う。(4年次)
4. 栄養士・管理栄養士教育課程の卒業要件に加え、栄養教諭一種免許状およびフードスペシャリスト資格の取得に関する科目を設定する。これらの関連科目を履修し、所定の単位数を修得することで、管理栄養士国家試験受験資格および栄養教諭免許状、フードスペシャリスト資格が取得できる。

科 目	必 修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP 1-1	DP 1-2	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1	
			1年次		2年次		3年次		4年次										
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
社会・環境と健康	公衆衛生学	2			2									◎	○	○	○		
	栄養疫学	2			2									◎	○	○	○		
	健康管理概論	2					2							◎	○	○	○		
	健康情報処理論	2			2									○	○	○			
	社会福祉概説	2				2								○		○	◎	○	
	看護学	2						2							○	○	◎		○
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学	2	2											○					○
	応用生理学	2		2										○					○
	生化学Ⅰ	2		2										○	◎	○	○		
	生化学Ⅱ	2		2										○	○	◎	○		
	病理基礎医学	2		2											◎	○	○		○
	疾病診断治療学Ⅰ	2			2										◎	○	○		○
	疾病診断治療学Ⅱ	2				2									◎	○	○		○
	微生物学	2					2										◎		○

科 目	必修	選 択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1									
専 門 基 礎 分 野	運動生理学	2							2									
	食品学Ⅰ	2	2															
	食品学Ⅱ	2		2														
	加工食品機能論	2				2												
	調理学	2	2															
	食品衛生学	2				2												
	フードスペシャリスト論	2	2															
	食品の官能評価・鑑別論演習	2			2	2												
	食品流通・消費論	2				2												
	フードコーディネータ論	2						2										
食 べ 物 と 健 康	解剖生理学実習	1			3													
	人体の構造と機能基礎実習	1			3													
	生化学実習	1				3												
	食品学実験	1				3												
	食品栄養実習	1				3												
	食品衛生学実験	1						3										
	健康情報処理実習	1					3											
	基礎調理学実習	1		3														
	応用調理学実習	1						3										
	臨床医学実習	1							3									

科目	必修	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
		1年次		2年次		3年次		4年次											
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
基礎栄養学	基礎栄養学 I		2							1. 栄養の概念について説明できる。 2. 各栄養素の構造と役割、およびその消化・吸収機構について説明できる。 3. 糖質、脂質、タンパク質について、その生体内における栄養代謝の基礎を説明できる。		◎	○						
	基礎栄養学 II				2					1. ビタミン、無機質、水・電解質の栄養について、その代謝の基礎を説明できる。 2. エネルギー代謝の基本について説明できる。 3. 栄養における遺伝子の関わりについて説明できる。 4. 各栄養素の代謝の相互関連について説明できる。 5. 栄養学史、栄養障害、食物繊維などについて説明できる。		◎	○						
応用栄養学	栄養学概説				2					1. 食事摂取基準の概念(策定方針、策定に関する基本的事項)を説明できる。 2. 食事摂取基準の活用に関する基本的事項を理解できる。 3. 食事摂取基準に設定されているエネルギーと各栄養素について、値の策定に関する背景、科学的根拠を説明できる。 4. 食品成分表の構成を説明できる。 5. 食品成分表の成分項目の位置づけを説明できる。 6. 食品成分表の成分項目の分析方法を説明できる。 7. 食品成分表を用いて、手計算で、献立の栄養積算ができる。		◎	○	○					
	応用栄養学 I				2					1. 栄養マネジメントの概要を説明できる。 2. 食事摂取基準の基礎的事項を説明できる。 3. 妊娠、授乳期における生理、生化学的変化に応じた栄養の特性、この時期に起こりやすい疾病の予防・改善のための栄養管理の方法、食事摂取基準を活用した栄養管理について説明できる。 4. 新生児期、乳児期の栄養の基本や心身の発育と栄養の関連性、消化吸収能を主とした小児の栄養生理学的特徴について理解できる。		◎	○	○	○				○
	応用栄養学 II						2			1. 乳児期の栄養ケア、幼児期・学童期・思春期における心身の発達、食生活の特性や疾患、成長期における食事摂取基準を理解し、それぞれに適した栄養管理について説明できる。 2. 成人の形態的・機能的な特徴ならびに、生活習慣病の概要およびそれらの栄養の改善による予防および栄養管理について説明できる。 3. 高齢期における加齢および老化の理論、身体・精神的特徴、疾患、栄養管理等を理解し、説明できる。		◎	○	○	○				○
	運動・環境と栄養		2					2		1. なぜ疾病の予防や健康の維持・増進さらに疾病治療に運動が有効なのかを理解し説明できる。 2. 運動不足病とは何か、またその実態とそれらを生み出す社会的・経済的・生き方の背景について理解できる。 3. 運動時に要求される栄養素の量・質・バランスについて理解できる。 4. 運動において、各栄養素がどのように代謝されるかそのプロセスを学ぶ。特にエネルギー代謝と栄養素の関係について深く理解できる。 5. 疾病予防や疾病の治療、あるいは健康の維持・増進と生活環境がどのように関連しているかを理解できる。		○	◎	○					
	栄養教育基礎				2						1. 栄養教育の意義、定義、目的等の栄養教育の概念を説明できる。 2. 社会における管理栄養士の使命と役割、職業倫理について説明できる。 3. 栄養教育活動の現状と法的根拠、栄養教育の歴史について説明できる。 4. 栄養教育におけるカウンセリングの基本について理解し、説明できる。 5. 協働する職種との連携について説明できる。		○		◎	○	○	○	
栄養教育論	栄養教育論 I						2			1. 栄養教育に関わる理論とモデルについて説明できる。 2. 行動変容のための行動科学理論及び技法について理解し、説明できる。 3. 個人及び集団におけるカウンセリングの意義と特性について説明できる。 4. 栄養教育の目標設定・計画立案・実施・評価・改善の流れを理解し、栄養教育マネジメントについて説明できる。		◎	○		○	○			
	栄養教育論 II							2		1. ライフステージ及びライフスタイルに応じた栄養教育の特徴について説明できる。 2. ライフステージ及びライフスタイルに応じた栄養教育の課題について説明できる。 3. 人の食行動を科学的に考察し、行動科学と栄養教育の関連性を理解できる。		○	○	◎	○	○	○	○	
	臨床栄養管理学						2			保健、医療、福祉といった臨床において多職種と連携した栄養管理を行うため、管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、チーム医療の一員として、傷病者の栄養ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的とする。 1. 臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができる。 2. 栄養管理のためのスクリーニング、評価(アセスメント)、プランニング、モニタリング、再評価の方法について説明することができる。 3. 栄養ケアの記録法および傷病者への栄養教育の基本について説明することができる。 4. 栄養補給法および薬と栄養の相互作用について説明することができる。		○	○	◎		○			
臨床栄養学	栄養治療学 I							2		1. 各疾患の成因・病態・診断基準・治療法を理解し、具体的な栄養管理基準・方法を説明できる。 2. 各疾患の栄養ケア計画を作成し、栄養ケア実施後のモニタリング法、栄養ケアの評価法を説明できる。 3. 各疾患の治療のための栄養管理方法として、具体的な調理のポイントを説明できる。 4. 各疾患の栄養管理を理解したうえで、個人対応できる。		◎	○	○	○	○	○		
	栄養治療学 II								2	1. 各疾患の成因・病態・診断基準・治療法を理解し、具体的な栄養管理基準・方法を説明できる。 2. 各疾患の栄養ケア計画を作成し、栄養ケア実施後のモニタリング法、栄養ケアの評価法を説明できる。 3. 各疾患の治療のための栄養管理方法として、具体的な調理のポイントを説明できる。 4. 各疾患の栄養管理を理解したうえで、個人対応できる。 5. 医療における栄養管理の意義、管理栄養士の役割を述べることができる。		◎	○	○	○	○	○		
	臨床栄養活動論		1						1	1. 医療人とは何か、医療過誤を含めた医療に関する法律と管理栄養士の関わりについて理解できる。 2. 医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実態について理解できる。		○	○	○	◎	○	○	○	
	介護概論								1	1. 保健・医療・福祉の動向と現在の介護問題について理解できる。 2. 介護の理念、概念及び機能について理解できる。 3. 介護の展開過程について理解できる。 4. 認知症高齢者の介護について理解できる。		○		◎					
公衆栄養学	公衆栄養学 I							2		1. 公衆栄養学の概念とヘルスプロモーションとは何か説明できる。 2. わが国の健康・栄養問題の現状と問題点、公衆栄養施策について具体例をあげながら説明できる。 3. 「日本人の食事摂取基準」の概念と活用理論を理解し、集団のアセスメントができる。		◎		○	○				
	公衆栄養学 II								2	1. 地域社会に根付いた集団の特性や諸問題を把握したうえで、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・評価することができる。 2. 公衆栄養プログラムの運営に際し、適切な社会資源の活用や、環境因子への働きかけの手法を理解し、説明することができる。			○	◎				○	
	地域栄養活動論								2	1. 地域栄養活動実践の概要と行政組織、管理栄養士の役割について理解する。 2. 地域における公衆栄養活動プログラム立案の手法について理解する。 3. 地域栄養活動の様々な場における管理栄養士の専門的な業務や活動の実態を理解する。				○	◎	○	○		
給食経営管理論	給食計画論							2		1. 給食とはどのようなものか、その概念を理解し、給食における栄養士・管理栄養士の役割を説明できる。 2. 対象にあった栄養・食事管理の計画と評価のあり方を説明できる。 3. 食料管理、生産管理、衛生管理、施設・設備管理など個々の業務内容の基本と他の業務との連携を説明できる。		◎	○	○					
	給食経営管理論								2	1. 経営管理について説明できる。 2. 給食経営の資源となる「人」「物」「金」「情報」をマネジメントすることについて説明できる。 3. 各種給食施設における給食の位置づけと給食経営管理の特性を説明することができる。		◎	○	○					

科目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP		
			1年次		2年次		3年次		4年次											
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
基礎栄養学実習	1				3						1. 糖質代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 2. 脂質代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 3. たんぱく質代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 4. エネルギー代謝に関する生理・生化学的指標を実際に測定し、その栄養評価上の意義を説明できる。 5. ビタミン、ミネラル、その他栄養関連事項に関して、その栄養評価上の意義を説明できる。		◎	○	○					
	1					3					1. 食事摂取基準を活用し、ライフステージ別の対象者の状態・特性に応じた栄養管理を行うことができる。 2. 作製献立に基づいて実習を行う中で、各ライフステージにおける調理上の留意点を理解し、必要な調理技術を習得できる。 3. 競技種目別のアスリートの栄養管理について理解し、それに必要な献立作成、栄養補給法の立案ができる。 4. 特殊環境下で働く人々の栄養管理について理解し、それに必要な献立作成、栄養補給法の立案ができる。		○	◎	○	○	○	○	○	
	1					3					1. 対象者又は対象集団にあった栄養評価項目を選択し、栄養診断ができる。 2. 診断に基づき、栄養教育計画を作成し、栄養教育を実施することができる。 3. 栄養教育効果を高めるためのプレゼンテーション技術を修得する。 4. 対象者の発達段階や場に応じたコミュニケーションスキルを修得する。 5. 実施した栄養教育を適切に評価し、改善につなげることができる。	○	○	○	○	○	◎	○		
	1					3					1. 栄養管理プロセスの概念と意義を理解し、説明できる。 2. 栄養アセスメントの各パラメータの栄養学的意義を説明することができる。 3. 目的に合わせた栄養アセスメント項目の選択、栄養状態の判定(栄養診断)、課題の特定、目標設定を行うことができる。 4. 疾患・病態および栄養状態を把握し、治療のための栄養ケア計画を作成できる。 5. 疾患・病態および栄養状態に合わせた栄養教育を実践することができる。 6. 臨床における栄養管理と給食経営管理の連携について理解できる。 7. 施設や疾患・病態別に応じた献立の作成ができる。		○	○	○			○	◎	
	1					3					1. 臨床栄養管理の流れを理解し、説明できる。 2. 栄養補給法の種類と適応範囲を理解し、適確に選択できる。 3. 疾患・病態別の食事療法の意義を説明できる。 4. 食事療法に利用される治療用特殊食品の種類、特徴を理解し、説明できる。 5. 疾患・病態別に応じた献立作成と調理ができる。 6. 疾患・病態および栄養状態に合わせた栄養教育を実践することができる。 7. 疾患・病態別に対して適切な栄養管理を実践できる。		○	○	○			○	◎	
	1					3					1. 適切なニーズアセスメントを選択・実施し、プリシード・プロシードモデルに基づいた評価判定ができる。 2. 対象集団や地域の特性を把握し、適切な社会資源を活用した公衆栄養プログラムを作成することができる。 3. 健康的な食環境づくりを提案することができる。		◎	○	○				○	
	1					3					1. 実習計画に基づき各自が分担の作業を果たしながら、協力・連携の重要性を認識できる。 2. 給食計画論および関連科目の理論・知識・技術と実習との関連が理解できる。 3. 栄養・食事管理、食料管理、衛生管理、生産管理等の業務の計画、実施、評価にかかわる帳票等の作成ができ、実施業務が遂行できる。 4. 給食調理業務のための基本的な調理技術を修得し、活用できる。		◎		○					○
	1					3					1. 給食経営管理論の理論と実習の関連が理解できる。 2. 給食経営管理業務の中心となる栄養・食事管理と、食料管理、衛生管理、生産管理、品質管理、施設設備管理、会計管理、事務管理などの各管理業務との関連性について理解し、総合的な判断ができる。 3. 対象施設の特性に応じた栄養・食事管理の計画・実施・評価のあり方を、実務に基づいて説明できる。 4. 経営管理の資源である「人」「物」「お金」「情報」などの給食における特性を把握し、マネジメントの理論を実務面で展開する手法を理解できる。		◎		○					○
総合演習	1					2					1. 臨地実習の目的を理解し、実習に当たって必要な知識や技術を身に付け、積極的な姿勢で実習に臨むことができる。 2. 臨地実習 I に向け、特定給食施設における給食システムの概要、給食の特質および栄養士業務を理解する。	○	○		○			◎		
	1						2				1. 管理栄養士に必要な最新の栄養学分野における情報、関連領域の動向を理解し、説明できる。 2. ライフステージ別栄養分野における栄養改善を必要とする事例について、専門科目で学んだ内容から総合的に理解し、適切な栄養ケア計画を立案できる。 3. それぞれの疾患において、成因・病態・治療法を総合的に理解して、具体的な栄養管理方法を提案できる。 4. 各疾患に対して、栄養計画の作成、栄養ケアの実施、モニタリングを行い、治療のための栄養管理を行うことができる。		○	◎	○	○	○	○	○	
臨地実習	1						1週				1. 栄養士・管理栄養士業務の実践活動の場に臨んで、学内で学んだ理論と実践の現状を結び付けて理解できる。 2. 学内で修得した給食の運営および給食経営管理に関する知識や技術を、臨地実習施設で適用できる。 3. 給食の運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面等のマネジメントを行う能力を修得する。 4. 実践活動の場で業務上の問題点や課題に気づき、解決していく能力を身に付ける。	○	○	○	○	○	◎	○		
	2						2週				1. 医療施設における栄養管理の意義、方法について理解し説明できる。 2. 栄養ケアマネジメントを理解し実施することができる。 3. チーム医療を行うためのコミュニケーション能力を習得できる。	○	○	○	◎	○	○	○		
	1						1週				1. 保健所・市町村保健センターの性格を理解し、行政管理栄養士の業務について説明できる。 2. 地域の実態に応じた公衆栄養プログラムを実践、評価することができる。 3. 多職種との連携を図ることができる。 4. 医療機関における到達目標は、臨地実習 II に準ずる。	○	○	○	○	○		◎		

科 目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP
			1年次		2年次		3年次		4年次									
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								
			1-1	1-2	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1									
食と健康分野	調理師論	2	2									◎					○	
	薬事法規概論	2	2									◎					○	
実践栄養分野	実践調理・調理科学演習	1							1			○		○			◎	
	スポーツ栄養学演習	1							1			○	◎	○		○	○	
	国際栄養論	1							1			○		○	○		◎	
	臨床栄養・介護演習	1							2			○	○	○		○	◎	
専門演習	分子栄養学	1							1				○	◎			○	
	管理栄養士特論Ⅰ	2							4				◎	○				
	管理栄養士特論Ⅱ	2							4				◎	○				
	管理栄養士特論Ⅲ	2							4				◎	○				
専門研究	管理栄養士特論Ⅳ	2							4				◎	○				
	卒業研究	4							4	4		○	○	○	○	○	○	
	卒業ゼミ	2							2	2		○	○	○	○	○	○	

英語学科

学位授与の方針 (DP)

人文学部英語学科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、基準となる単位数を修得し、以下の素養・能力を有すると認められる者に学士(人文学)の学位を授与します。

- DP1【知識・理解】
 - 1-1) 国際的視野と地域的視野に立って行動するための豊かな教養と幅広い知識を身につけている。
 - 1-2) 英語に関する豊かな知識と運用能力を身につけている。
- DP2【思考・判断】
 - 2-1) 現代社会の諸問題について論じ、適切な対応策を考えることができる。
- DP3【関心・意欲】
 - 3-1) 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解をさらに深めようとする意欲を身につけている。
 - 3-2) 国際社会や地域社会が抱える課題に関心をもち、課題解決のために自らの能力を高めようとする意欲を身につけている。
- DP4【態度】
 - 4-1) グローバル社会にあって、より良い環境を創り出すために、他者と協働する姿勢を身につけている。
 - 4-2) 国際社会の一員として、自ら積極的に責任ある役割を果たすことができる。
 - 4-3) 自分のもつ能力や知識を国際社会や地域社会の発展に役立てる方法を考え、実行できる。
- DP5【技能・表現】
 - 5-1) 他者の価値観や立場に立ち、他者と協働することができるコミュニケーション能力を身につけている。
 - 5-2) 英語及び日本語による情報収集・情報処理の技術や方法を身につけている。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 英語学科カリキュラムは、教養教育科目を基盤とし、専門教育科目の「英語スキル科目」、「英語コミュニケーション科目」、「国際理解科目」、「キャリア形成科目」、「地域貢献・国際貢献科目」、「演習・研究」で構成する。
2. 「英語スキル科目」では、英語によるコミュニケーション能力向上の基礎を育成する。
3. 「英語コミュニケーション科目」では、英語の4技能(聴く、話す、読む、書く)を向上させるため、Active Learningの手法を取り入れた科目や英語文学を含む英語の総合力向上を目指す科目で構成する。
4. 「国際理解科目」では、異文化理解を深め、英語・日本語などを通して、国際社会に関する知識と思考能力などを養う科目と、海外研修に関わる科目で構成する。
5. 「キャリア形成科目」では、国際経済やビジネス等についての知識を深める科目を組み込んでいく。また、教職に関する科目、日本語教員養成に関する科目では、所定の単位数を修得することで、高等学校教諭一種免許状(英語)、中学校教諭一種免許状(英語)の取得、日本語教員養成課程修了証が授与される。
6. 「地域貢献・国際貢献科目」では、英語を通して地域社会や国際社会における課題解決力やリーダーシップを育成する。
7. 「演習・研究科目」では、専門的な知識や研究方法及び社会に出て人々と協働し連携できるコミュニケーション能力を育成する。

科 目	必修	選択	開講時期・週授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
実践英語音声学 I	2		2									◎										
実践英語音声学 II	2			2								◎										
文法・コンポジション I	2		2									◎										
文法・コンポジション II	2			2								◎										
英検演習 I	2		2									◎		○								◎
TOEIC演習 I	2			2								◎		○								
英検演習 II	2			2								◎		○								◎
TOEIC演習 II	2				2							◎		○								
英語プレゼンテーション I	2				2							◎									○	○
英語プレゼンテーション II	2					2						◎									○	○
英語プレゼンテーション III	2						2					◎									○	○
英語コミュニケーション I	2		4									◎		○								○
英語コミュニケーション II	2			4								◎		○								○
英語ディスカッション I	2				2							○		○								◎
英語ディスカッション II	2					2						○		○								◎
英語プロジェクト I	2						2					○	○	○	○	○						◎
英語プロジェクト II	2							2				○	○	○	○	○						◎
グローバル英語 I	2								2			○	○	○	○	○					○	◎
グローバル英語 II	2									2		○	○	○	○	○					○	◎
リーディング I	2		2									◎		○								○
リーディング II	2			2								◎		○								○
リーディング III	2				2							◎		○								○

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次		3年次		4年次															
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
ケーション科目																								
	リーディング IV		2				2																	
	英語学概論I		2			2																		
	英語学概論II		2			2																		
	ライティング基礎		2			2																		
	パラグラフ・ライティング		2			2																		
	エッセー・ライティング		2					2																
	英語文学I		2			2																		
	英語文学II		2			2																		
	英語通訳演習 I		2					2																
英語通訳演習 II		2					2																	
専門教育科目	欧米文化交流研修A		2	2																				
	アジア文化交流研修A		2	2																				
	欧米文化交流研修B		2	2																				
	アジア文化交流研修B		2	2																				
	メディア英語 I		2	2																				
	メディア英語 II		2			2																		
	時事英語入門		2				2																	
	応用時事英語		2				2																	
	異文化間コミュニケーション I		2			2																		
	異文化間コミュニケーション II		2			2																		
国際理解科目	エリア・スタディ I		2			2																		
	エリア・スタディ II		2			2																		
	国際経済入門		2			2																		
	国際関係入門		2			2																		
	日本の歴史と文化地理 I		2	2																				
	日本の歴史と文化地理 II		2			2																		
	文化人類学		2				2																	

科目	必修	選択	開講時期・授業時間数								到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	備考	
			1年次		2年次		3年次		4年次													
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期												
専 門 科 目	基礎中国語	□			2							○	◎	○								
	中級中国語	□			2							○	◎	○								
	上級中国語	□				2						○	◎	○								
	応用中国語	□					2					○	◎	○								
	ツーリズム中国語	2						2					◎			○	◎					
	中国語通訳ガイド演習	2							2				◎			○	◎					
異文化交 流に 関する 科目	欧米文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修A	▲	2									○		◎								
	欧米文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	アジア文化交流研修B	▲	2									○		◎								
	比較文化論	2	2												◎			○				
	欧米観光文化地理Ⅰ					2						◎		○								
	欧米観光文化地理Ⅱ						2					◎		○								
	アジア観光文化地理Ⅰ	2				2								◎								
	アジア観光文化地理Ⅱ	2					2								◎							
	映画で学ぶ欧米文化	2						2							◎			○				
キ ャ リ ア 教 育 科 目	キャリアデザイン論Ⅰ	2					2								◎		○	○	○			
	インターンシップ	2						2								◎		○	○	◎		
	キャリアデザイン論Ⅱ	2							2							◎		○	○	○		
留 学 生 対 応 科 目	初級日本語	■	2										○		○		◎					
	中級日本語	■	2											○		○		◎				
	上級日本語	■	2											○		○		◎				
	応用日本語	■	2											○		○		◎				
	ツーリズム演習	1				2							○		○		◎		○	○		
演 習 ・ 研 究 科 目	ビジネス演習	1				2							◎			○		○	○			
	地域活性化演習	1					2						○		◎		○	◎				
	専門演習Ⅰ	1						2					○		◎		○	○	○	○		
	専門演習Ⅱ	1							2					○		◎		○	○	○		
	卒業研究	4								4				◎		○		○	◎			

助産別科 カリキュラムマップ

学位授与の方針 (DP)

- DP1【知識・理解】
1-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに必要な基礎的知識を修得している。
DP2【思考・判断】
2-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアにおける対象の健康状態を根拠に基づき論理的に思考・判断できる。
DP3【関心・意欲】
3-1) 周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに関する課題に主体的に取り組む意欲を持っている。
DP4【態度】
4-1) 専門職としての倫理観をもち、自律した態度を身につけている。
4-2) 母子保健活動において多職種との連携および協働する態度を身につけている。
DP5【技能・表現】
5-1) 基本的な助産ケアを安全・安楽に基づき実践できる。

教育課程編成・実施の方針 (CP)

1. 助産別科の教育課程は、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
2. 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目をより円滑に学ぶための「支援科目」および助産実践力を育成する「実習科目」で構成する。
3. 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方や助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得する。また、社会の動向・対象のニーズの変化に関心をもち、女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
4. 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得する。また、妊娠・分娩・産褥及び新生児各期において正常および正常からの逸脱に関する判断ができ、助産師として責任ある態度と助産技術を提供する能力を育成する。
5. 支援科目では、助産の実践領域をより円滑に学ぶための幅広い知識を修得するよう育成する。
6. 実習科目では、学内で修得した知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、対象に応じた基本的な助産ケアを安全・安楽に提供できる実践力を育成する。また、母子保健チームの一員として責任感をもち、多職種との連携を基盤に地域とのつながりを意識して行動できる態度を育成する。

授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 選授業時間数		DP 1-1	DP 2-1	DP 3-1	DP 4-1	DP 4-2	DP 5-1
				前期	後期						
助産の理論領域 基礎科目	基礎助産学Ⅰ	1	1		2	◎		○	○		
	基礎助産学Ⅱ	1	1		2	◎					
	母子の心理・社会学	1	1		2	◎		○			
	助産学研究演習	1	1		2		○	◎	○		
	母子栄養学	1	1		2	◎	○				
	キリスト教と生命倫理	1	1		2	○		○	◎		
助産の実践領域 専門科目	助産診断・ケア学Ⅰ(妊娠期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	1		4	○	◎	○	○		○
	助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	1		4	○	◎	○	○	○	○
	助産診断・ケア学Ⅵ(健康教育演習)	2	2		4	○	○	◎	○		○
	助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	2	2		2	○	◎	○			
	ウィメンズヘルスケア	1	1		2	◎	○	○	○		
	助産管理学	2	2		2	◎	○	○			
	地域母子保健	1	1		2	◎	○	○	○	○	
	子育て支援論	1	1		2	◎		○			
支援科目	母性の運動科学	1	1		2	◎					○
	人間関係とコミュニケーション	1		1	2	○			◎		
助産の実践領域 実習	助産学基礎実習	4	4		実習		○	○	○		◎
	助産学実習Ⅰ(正常)	5	5		実習		○	○	○	○	◎

助産別科 カリキュラムマップ

学位授与の方針（DP）

- DP1【知識・理解】
1-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに必要な基礎的知識を修得している。
- DP2【思考・判断】
2-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアにおける対象の健康状態を根拠に基づき論理的に思考・判断できる。
- DP3【関心・意欲】
3-1）周産期の助産ケアをはじめとするウィメンズヘルスケアに関する課題に主体的に取り組む意欲をもっている。
- DP4【態度】
4-1）専門職としての倫理観をもち、自律した態度を身につけている。
4-2）母子保健活動において多職種との連携および協働する態度を身につけている。
- DP5【技能・表現】
5-1）基本的な助産ケアを安全・安楽に基づき実践できる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

- 助産別科の教育課程は、助産師としての能力を育成するための基礎となる「助産の理論領域」と助産実践能力を培う「助産の実践領域」で構成する。
- 助産の理論領域は助産実践の基となる基礎的知識を学ぶ「基礎科目」で構成し、助産の実践領域は助産実践の中核となる「専門科目」と専門科目をより円滑に学ぶための「支援科目」および助産実践力を育成する「実習科目」で構成する。
- 基礎科目では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの考え方を核にして、女性の健康に関する基本的な考え方と助産師の役割を中心とした周産期の助産ケアに必要な基礎的知識を修得する。また、社会の動向・対象のニーズの変化に関心をもち、女性の健康に関する課題に積極的に取り組む態度を育成する。
- 専門科目では、安全・安楽なマタニティサイクル支援、健やかな乳幼児の成長発達支援、健やかな女性のライフサイクル支援に関する知識を修得する。また、妊娠・分娩・産褥及び新生児各期において正常および正常からの逸脱に関する判断ができ、助産師として責任ある態度と助産技術を提供する能力を育成する。
- 支援科目では、助産の実践領域をより円滑に学ぶための幅広い知識を修得するよう育成する。
- 実習科目では、学内で修得した知識・判断力・態度・技能の統合的な学びの集大成として、対象に応じた基礎的な助産ケアを安全・安楽に提供できる実践力を育成する。また、母子保健チームの一員として責任感をもち、多職種との連携を基盤に地域とのつながりを意識して行動できる態度を育成する。

実践領域	科目	授業科目の名称	単位数	必修	選択	開講時期 選授業時間数		DP	DP	DP	DP	DP	DP
						前期	後期	1-1	2-1	3-1	4-1	4-2	5-1
		助産学実習Ⅱ（正常逸脱）	3	3			実習	○	○	○	○	○	◎
		助産管理実習	1	1			実習	○	○	◎	○		

教職実践演習（栄養教諭）	2	2								2	1. 教職課程関連科目について振り返り、各自に残された課題を確認する。 2. 栄養教諭として求められる資質・能力を具体的な学校場面に位置づけて考えることができる。 3. 信頼される学校づくりに資する栄養教諭のあり方についての理解を深めることができる。 4. 児童生徒等の理解の方法とそれに基づく教育活動について実践力を高めることができる。 5. 食の指導の計画・実施・評価に関する実践力を高めることができる。 6. 栄養教諭としての自律的な成長に必要なリソースの活用法を身につけることができる。	○	○	○	○	○	◎	○
--------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---	---	---	---	---	---	---

保育科一般教育カリキュラムマップ

		単位数		短期大学の学位授与の方針(DP)										
				DP1【知識・理解】		DP2【思考・判断】	DP3【関心・意欲】			DP4【態度】		DP5【技術】		
		必修	選択	1-1)	1-2)	2-1)	3-1)	3-2)	3-3)	4-1)	4-2)	5-1)	5-2)	5-3)
キリスト教教育	キリスト教学Ⅰ	2		◎										
	キリスト教学Ⅱ	2		◎										
初年次教育	初年次セミナー	1		◎								○		
女性と健康	運動と健康	1		◎	○									
	スポーツ実技	1									◎			
	女性とマナー	*1		◎										
	共生社会とジェンダー	*1		◎										
基礎教養科目	心理学	2		◎										
	文学	2		◎										
	日本国憲法	2		◎				○						
	経済学入門	2		◎										
アカデミックスキル	メディアリテラシー	2			◎								○	
	情報処理入門	2			○								◎	
	英会話入門	*1										◎		
	応用英会話	*1										◎		
	ハングル入門	*1										◎		
	日本語表現法	1										◎		
地域創生	北九州の技と文化	1										◎		
キャリア形成支援	キャリア開発	1		◎										

※ *は1単位以上必修選択

保育科

学位授与の方針（DP）

保育科の教育目的を達成するために設定された科目を履修して、定められた単位数を修得し、以下の要件を満たす者に短期大学士（保育学）の学位を授与します。

DP1【知識・理解】

- 1-1) キリスト教精神を基盤に、教養と知識を身につけている。
- 1-2) 保育者に必要な専門分野の学問知識を修得している。

DP2【思考・判断】

- 2-1) 個々の子どもを深くとらえ、保育としての適切な対応を考えることができる。

DP3【関心・意欲】

- 3-1) 子どものあそびや子ども文化などに興味をもつ。
- 3-2) 子どもや保護者を含めた現代的課題に関心を持ち、保育者としての社会的な役割を意識する。

DP4【態度】

- 4-1) 保育者としての責任を自覚し、倫理に基づく行動ができる。
- 4-2) 自らの保育実践を振り返り、さらに質の高い保育を追求する力を有している。

DP5【技能・表現】

- 5-1) コミュニケーション能力やマナーを身につけ、他者と協働することができる。
- 5-2) 保育内容をふまえた基本的な表現技術を身につけている。
- 5-3) 子どもや保護者への適切なあそびや養護技術などを実施することができる。

教育課程編成・実施の方針（CP）

保育科は、以下のような教育課程を編成し実施します。

1. 保育科の教育課程は、保育の専門家を育成することを目的とし、短期大学士として必要な教養を身につける一般教育と保育者に必要な知識・技術を養うための専門教育で構成する。

2. 一般教育は、「キリスト教教育」、「初年次教育」、「女性と健康」、「基礎教養科目」、「アカデミックスキル」、「地域創生」、「キャリア形成支援」の科目群で構成する。「キリスト教教育」では、建学の精神の基本であるキリスト教を学び、学院の歴史および建学の精神である「感恩奉仕」を理解させることができる素養を身につける。「初年次教育」では、大学教育への移行が円滑に図られるための教育プログラムを実施する。「女性と健康」では、女子大学として女性と健康に焦点をあて、科目を構成する。「基礎教養」では、専門科目の導入である学問領域に触れ、幅広い教養を身につける。「アカデミックスキル」では、外国語の学習により異文化理解とコミュニケーションスキルの基盤を養い、IT活用能力を身につける。「地域創生」では、地域の現実的な課題を解決するために、必要な基本的姿勢と技術を修得する。「キャリア形成支援」では、地域社会が求める自立した女性を目指すためのキャリア形成の基本を学び、学科のキャリア形成発展科目との連動により、実践的態度及び技術修得を目指す。

3. 専門教育は、「保育の本質・目的に関する科目」、「保育の対象の理解に関する科目」、「保育の内容・方法に関する科目」、「保育の表現技術」および実習関連科目で構成する。「保育の本質・目的に関する科目」では、児童福祉や保育者としての本質に関する科目で構成している。「保育の対象の理解に関する科目」では、子どもの心身の発達に資する知識を身につける。「保育の内容・方法に関する科目」では、キリスト教保育を含めて保育内容について幅広い知識と実践を学ぶ。「保育の表現技術」に関する科目では、子どもの表現を広くとらえながら遊びを促していく技術の修得を目指している。各科目群は、保育者に必要な知識・技術を養成するため、段階的に進行する。さらに、実習関連科目では保育者として必要な総合的な力を養成する。

4. 専門性を高め、職業選択の幅を広げるため、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格の取得に必要な科目の他、多様化する社会のニーズに対応するために必要な免許・資格に係る科目を配置している。

授 業 科 目	必 修	選 択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP			
			1年次		2年次																
			前期	後期	前期	後期															
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3					
専 門 教 育 科 目	教職に関する科目	保育の本質・目的に関する科目	保育者論	2		2															
			保育原理	2		2															
			教育原理	2			2														
			子ども家庭福祉	2		2															
			社会福祉	2			2														
			社会的養護Ⅰ	2				2													
	専 門 教 育 科 目	保育の本質・目的に関する科目	子ども家庭支援論	2			2														
教育相談とカウンセリング			2				2														
保育の心理学			2				2														
子どもの理解と援助			1					2													
子どもの保健			2					2													

授 業 科 目	必 修	選 択	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P				
			1 年 次		2 年 次																
			前 期	後 期	前 期	後 期															
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3					
保育の対象の理解に関する科目																					
	子どもの食と栄養	2			4	(4)	1. 子どもの食生活の特徴について説明できる。 2. 栄養に関する基礎的知識について説明できる。 - どのような食べ物をどれだけ、どのようにして食べたら望ましい食生活といえるのか説明できる。 3. 子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解できる - 保育者としての援助の役割について説明できる。 4. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を伝統ある食文化・行事食や地域の特性を生かした食とのかかわりの中で理解できる。 5. 児童福祉施設における食生活等について把握できる。											○			
専 門 教 育 科 目 教職に関する科目 保育の内容・方法に関する科目																					
	保育の計画と評価 (教育課程含む)	2					2	1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と、評価について説明できる。 2. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を説明できる。 3. 保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に説明できる。 4. 短期の指導計画(週・日案)を作成することができる。 5. 部分指導案作成を模擬保育の演習を経て修正し、自己評価することができる。												○	
	子どもと健康	1					1	1. 幼児期の健康課題と健康の発達の意味について説明できる。 2. 幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を説明できる。 3. 安全な生活と怪我や病気の予防を説明できる。 4. 幼児期の運動発達の特徴と意義を説明できる。													○
	子どもと人間関係	1					1	1. 乳幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会背景を理解し、人間関係を築く力の発達の意義について理解している。 2. 幼児期の人間関係の発達について、園生活における子どもの姿と合わせて理解している。 3. 人間関係を築くために必要な基本的なスキルについて理解している。													○
	子どもと環境	1					1	1. 主体的に活動する子どもを取り巻く環境の意義を理解し、専門的知識・技能を身につける。													○
	子どもと言葉	1					1	1. 領域「言葉」の指導の基礎となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。													○
	子どもと表現	1					1	1. 領域「表現」の指導において幼児の表現の発達、それを促す要因を理解し、幼児の感性・想像力を育む表現遊びや環境の構成についての知識・技能・表現力を身に付ける。													○
	保育内容総論	1					2	1. 「保育内容総論」の意義と、乳幼児の保育内容が説明できる。 2. 子どもの発達の順序性と、適切な援助について説明できる。 3. グループで協力して、指導計画を作成し、模擬保育の発表ができる。													○
	保育内容「健康」の指導法	1					2	1. 幼児教育の目的と領域「健康」のねらいおよび内容について理解する。 2. 子どもの心と健康、それにかかわる保育者の役割を理解する。 3. 子どもの健康と遊びおよびその環境構成を理解する。 4. 生活習慣の形成・安全教育について理解する。													○
	保育内容「環境」の指導法	1					2	1. 保育における「環境」の意味を理解することができる。 2. 幼稚園・保育所における保育内容「環境」のねらいと内容を知り、理解することができる。 3. 子どもの環境へのかかわり方の発達の過程を理解し、援助の方法を考察することができる。 4. 飼育・栽培の方法について具体的に知り、実践する方法を身につけることができる。 5. 幼児期の環境教育の方法を知り、望ましい方法を探究することができる。 6. 園環境のあり方について理解し、環境構成の計画をすることができる。													○
	保育内容「言葉」の指導法	1					2	1. 乳幼児期の言葉の育ちの過程について理解することができる。 2. 子どもの言葉の育ちと保育について、様々な事例をもとに考察することができる。 3. 子どもの言葉の育ちを支える児童文化財について理解することができる。 4. 児童文化財を活用した実践研究をすることができる。 5. 保育内容「言葉」のねらいと内容について理解することができる。													○
	保育内容「表現」の指導法(造形)	1					2	1. 作品を試行錯誤しながら完成させる喜びを知る。 2. 実習を通して、様々な素材、道具に慣れ親しみ、豊かな表現が出来るようになる。 3. 保育者としての造形的な知識や技能、実践的な指導力が身につく。													○
	保育内容「表現」の指導法(音楽・身体)	1					2	1. 音楽を聴いて即時に反応し、基礎リズム、強弱、速度についてより深く理解する。 2. 様々な形で表現する喜びを味わう。 3. ダルクローズ・リトミックを理解し、表現する力を獲得する。													○
	保育内容「人間関係」の指導法	1					2	1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」の位置づけを、説明できる。 2. 園生活における「人とかかわる力」の育ち(社会性の発達)について、遊びとの関連で説明できる。 3. 園生活における子どもの集団形成やグループ活動について、説明できる。 4. 子どもの「人とかかわる力」を育てるための保育者の働きについて、説明できる。 5. 園生活におけるけんかや問題行動と保育者の対応について、説明できる。													
保育実践の理解と方法	1					2	1. 幼稚園教育の基本的な考え方、子どもの発達の援助を行うための指導法について理解することができる。 2. 幼稚園の保育内容について学び、実践することができる。 3. 幼児指導に向けて適切なねらいと内容、効果的な指導法、環境構成と教材の準備ができる。													○	
保育方法とメディア	1					2	1. 人間としての「育ち」全体の観点に立って、「メディア(媒介物)」の活用を考察することができる。 2. 保育者として必要な情報機器および教材の活用ができる。 3. これまで継承されてきた教育方法について理解できる。 4. 自らの保育において重要な方法について考える力を身につける。													○	
特別支援教育論 (障がい児保育含む)	1					2	1. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や歴史の変遷および仕組みを理解している。 2. 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 3. 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身につけている。 4. 特別支援教育コーディネーター、関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解し、個々の保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。														○
障がい児保育演習	1					2	1. 障がい児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 2. 特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 3. 特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。													○	

授 業 科 目	必 選	修 択	週 授 業 時 間 数				到 達 目 標	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P	D P		
			1 年 次		2 年 次														
			前 期	後 期	前 期	後 期													
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3			
子育て支援		1			2	1. 子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の展開について、具体的に理解する。 2. 子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容とその実際を理解する。						◎	○				○		
乳児保育Ⅰ		2			2	1. 乳幼児の成長発達に即した保育の基本を理解する。 2. 乳児保育担当者としての基本的知識・技能の習得を図る。 3. 愛着形成期の子どもとのかかわりが人格形成の基礎となることを理解する。 4. かかわりの実際を学ぶ。		◎	○										
乳児保育Ⅱ		1			2	1. 乳幼児の成長発達に即した保育の基本を理解する。 2. 乳児保育担当者としての基本的知識・技能の習得を図る。 3. 愛着形成期の子どもとのかかわりが人格形成の基礎となることを理解する。 4. かかわりの実際を学ぶ。			○								◎		
子どもの健康と安全		1			2	1. 子どもの健康にかかわる保健活動の計画および評価ができる。 2. 子どもの養護技術が身につく。 3. 救命救急処置および応急処置法が身につく。 4. 保育現場における安全管理の具体的な方策を導き出すことができる。 5. 子どもの健康（心の問題も含む）を取り巻く関連機関との連携の在り方を考察できる。			○								◎		
保育の内容・方法に関する科目	社会的養護Ⅱ				2	1. 社会的養護における子どもの権利擁護について理解できる。 2. 施設養護及び他の社会的養護の機能や役割について具体的に学び理解できる。 3. 個々の子どもに応じた自立支援計画・養護計画の作成の意味と留意点を理解できる。 4. 援助（基本的生活・親子関係調整・学校や地域との関係調整・自己実現等）の方法や技術、内容等を理解できる。 5. 援助者としての倫理・人間性と専門性の向上に努めることを具体的に学び理解できる。 6. 社会的養護を通して家庭支援・子ども家庭福祉や地域福祉についての理解や認識を深めることができる。			◎		○						○		
	キリスト教保育		2		2	1. キリスト教保育の歴史を知り、その思想について理解できる。 2. キリスト教保育における行事の概要を知り、その意義について理解できる。 3. キリスト教保育における礼拝・祈り・賛美・聖話・聖書の劇等について理解できる。 4. キリスト教保育の基本理念について理解できる。 5. キリスト教保育の根幹にある子ども観・人間観について考えることができる。		◎									○		
	子ども音楽療育概論		2		2	1. 音楽療法に関する基本的考えを理解できる。 2. 対象児の発達とそれに応じての音楽活動について理解できる。			◎								○	○	
	子ども音楽療育演習		1		2	1. コミュニケーションを育てる療養プログラムを立案できる。 2. 障がい別、形態に応じて適切に工夫した楽器の使い方や弾き歌い、即興伴奏ができる。 3. 模擬セッションの実施とその評価ができる。											◎	○	
	子ども音楽療育実習		1		5日間	1. 実際に子ども達（障がいをもった子ども達）とのグループ体験や音楽活動へ参加や観察実習、体験実習を通して音楽を活動の実践方法を身につけることができる。												◎	○
	在宅保育		2			2	1. 在宅保育の意義や役割について知る。 2. 家庭訪問保育者として必要な知識・技能について理解できる。											○	◎
専 門 教 育 科 目	子どもと絵本				2	1. 認定絵本士の意義や役割について知る。 2. 絵本に関する基本的な知識や技能を理解し、実践することができる。					◎						○		
	音楽の基礎				2	1. 発声法・呼吸法を実践し、声をスムーズに出すことができる。 2. 音楽理論を学ぶことで、楽譜を読むことができる。 3. 正確な音程をとることができる。 4. 音楽における基本的な知識や技能を理解し、実践できる。			○								◎		
	子どものうたあそび				2	1. 曲中で音程を正しくとることができる。 2. 自ら曲想を考え、表現しながら歌唱することができる。 3. 保育現場における音楽的活動を展開するために必要な知識や技能を習得できる。											◎		
	子どものためのピアノⅠ				2	1. 手の構えや運指法などの基本を習得する。 2. 「バイエルピアノ教則本」の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	子どものためのピアノⅡ				2	1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語りができるようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	子どものうたと伴奏法Ⅰ				2	1. 『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』の約30曲の弾き語り出来るようになる。 2. 『バイエルピアノ教則本』の第100番程度の曲やマーチの演奏が出来るようになる。												◎	
	子どものうたと伴奏法Ⅱ				2	1. 主に『幼児の音楽教育』と『幼児さんびか』を教材として演奏技術を培い、それらの弾き語り出来るようになる。												◎	
	子どもの運動あそび				2	1. 幼児体育の果たしている意義と役割を理解できる。 2. 子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達について理解できる。 3. 幼児の体育指導に必要な技術・技能について理解できる。												◎	
	◇	子どもの発達理解とあそび				2	1. 乳幼児期の心身の発達と遊びとのかかわりについて説明できる。 2. 子どもの遊びや活動の展開を予想し、保育者の援助について記述できる。 3. 発達にそくした遊びのレパートリーを増やし、保育現場で活用できる。			○	◎							○	
		子ども文化				2	1. 子どもの成長と文化のかかわりについて説明できる。 2. さまざまな子どもの文化財についての基本を説明できる。 3. 子どもを取り巻く文化に関心をもち、主体的に課題発表に取り組む。					◎						○	

授業科目	必修	選択	週授業時間数				到達目標	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	DP	
			1年次		2年次														
			前期	後期	前期	後期													
							1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	5-3			
器楽アンサンブル		1				2												◎	
保育総合表現		2				4												◎	
◇	総合演習	子ども学基礎演習	2	2	2													◎	
		子ども学特別演習	2			2	2												◎
		保育・教職実践演習(幼稚園)	2				2												◎
専	教育実習	教育実習指導	1																◎
		教育実習 I	1		1週														◎
		教育実習 II	1			1週													◎
門	教育実習	教育実習 III	2				2週												◎
		保育実習指導 I	2	2	2														◎
		保育実習指導 II	1			1	1												◎
教	保育実習	保育実習指導 III	1			1	1												◎
		保育所実習 I	2				10日												◎
		保育所実習 II	2				10日												◎
育	保育実習	施設実習 I	2				10日												◎
		施設実習 II	2				10日												◎
		施設実習 III	2				10日												◎